平成26年第3回定例会　◆発言者一覧◆

	平成26年第3回定例会(第2日目) 2014.09.11	発言順：1　赤間次彦（自由民主党・仙台）
		発言順：2　加藤けんいち（市民フォーラム仙台）
		発言順：3　鈴木勇治（自由民主党復興仙台）
	平成26年第3回定例会(第3日目) 2014.09.12	発言順：1　鎌田城行（公明党仙台市議団）
		発言順：2　嵯峨サダ子（日本共産党仙台市議団）
		発言順：3　大槻正俊（社民党仙台市議団）
	平成26年第3回定例会(第4日目) 2014.09.16	発言順：1　菊地崇良（自由民主党・仙台）
		発言順：2　渡辺敬信（市民フォーラム仙台）
		発言順：3　庄司俊充（自由民主党復興仙台）
		発言順：4　佐々木真由美（公明党仙台市議団）
		発言順：5　ふるくぼ和子（日本共産党仙台市議団）
		発言順：6　相沢和紀（社民党仙台市議団）
		発言順：7　及川英樹（みんなの党・みんなの仙台）
	平成26年第3回定例会(第5日目) 2014.09.17	発言順：1　大泉鉄之助（自由民主党）
		発言順：2　やしろ美香（自由民主党・仙台）
		発言順：3　小野寺健（市民フォーラム仙台）
		発言順：4　渡辺博（自由民主党復興仙台）
		発言順：5　小野寺利裕（公明党仙台市議団）
		発言順：6　すげの直子（日本共産党仙台市議団）
		発言順：7　小山勇朗（社民党仙台市議団）
	平成26年第3回定例会(第6日目) 2014.09.18	発言順：1　早坂あつし（みんなの党・みんなの仙台）
		発言順：2　加藤和彦（自由民主党・仙台）
		発言順：3　佐藤わか子（市民フォーラム仙台）
		発言順：4　鈴木広康（公明党仙台市議団）
		発言順：5　小野寺淳一（みんなの党・みんなの仙台）
		発言順：6　野田譲（自由民主党・仙台）
		発言順：7　佐藤正昭（自由民主党・仙台）

平成26年第3回定例会（第2日目） 2014.09.11

発言順：1　赤間次彦（自由民主党・仙台）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：一般会計決算について ・平成２５年度の決算を市長はどのように捉えているか ・本市の決算状況は好転しているような印象を受けるが，実際はどうなのか ・五十九億円の黒字のうち五十億円を財政調整基金に積み立てるとしているが、この積立金を今後どのように扱うのか ・今回の市税収納率向上の実績に対する評価と今後の取り組み ・今後の市税収入の見通し ・本市の収支状況を確実に把握するために土地建物について時価評価額で決算資料をつくることができないか ・決算を踏まえた今後の財政運営についての市長の基本的な考え方	0	0	0	0
２：本市のまちづくりについて（新市立病院の精神科の医師の確保について）	0	0	0	0
３：本市の復旧・復興について ・本市の仮設住宅全体の状況・入居世帯の概況等 ・プレハブ仮設住宅の集約化についての認識 ・被災者生活再建推進プログラムの進捗状況についての評価・課題についての認識・対応と見通し ・本市東部地域の防災集団移転促進事業における住宅再建事業の進捗と認識 ・単独移転に対する支援の状況，申し込みのない宅地についての対応 ・丘陵部の被災宅地復旧について（未復旧宅地にどのように取り組んでいくのか）	0	0	0	0
４：仙台市放課後児童健全育成事業及び家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例について ・今回の条例案で省令を引用しているところと抜き書きしているところがあるがそのような方式にした理由 ・現時点で新制度へ移行する幼稚園や保育所がどれぐらいになると見込んでいるか，今後どのように新制度への移行を推進していくのか ・利用される保護者や事業者にとって大きく変わる点はどこか。メリットは何か。 ・新制度の課題 ・新制度移行により教育，保育を利用する子供の数はどのように変わっていくのか ・待機児童が解消されない要因と，新制度を生かしてそれをどのように解消していくのか ・消費税の引き上げが見送られ、財源の確保が見込めない場合の新制度運営への影響	0	0	0	0
５：マイナンバー制度について ・どのような事務を対象としてどのような形で特定個人情報保護評価を行おうとしているのか ・マイナンバー導入に向けた進捗状況	0	0	0	0
６：国連防災世界会議について（計画どおりに進捗しているのか）	0	0	0	0
７：土地利用について ・宮城野原貨物ヤードについてきょう現在本市の承知していること ・若林区の仙台工業団地の移転の状況 ・地下街が構築されていないことへの所見	1	1	0	2

８：公共事業について ・公共工事の品質確保の促進に関する法律の一部改正によって大きく変わったことは何か ・本市としての基本的な考え方 ・現場における発注者（市）の対応	0	0	0	0
９：人づくりについて（民間も含めて女性の登用に取り組むべき）	0	1	1	2
10：本市の起業家支援事業の現況について ・アシスタを開設してみて起業家の支援ニーズにはどのようなことがあるか ・シェアオフィスをアシスタの隣接・近辺に設ける必要があるのではないか ・国の制度を利用した起業家支援事業の推進	0	1	1	2
11：政令指定都市（仙台市）と都市所在の府県（宮城県）との交流と連携の必要性	0	1	1	2
12：文部科学省が東北薬科大学に医学部の設置を決定したことについて ・東北市長会と仙台市長としての所見・本市ができる協力 ・協力要請があった場合の対応	0	0	0	0
13：平成二十八年二〇一六サミットの開催地への立候補について ・本市も宮城県と連携すべき ・市長は何か特別な策を持っているのか	1	0	0	1
	2	4	3	9

【コメント】
１⇒決算のどこに問題があるのか問題点がつきつめられていない。抽象的な課題をあげて当局の所見を問う質問にどんな意味があるのか検討する必要がある。 ３⇒「今どうなっているか」は質問者（会派）自ら調査する必要がある。「今どうなっているのか」「どう評価しているか」「これからどうするか」はいずれも本来の質問の前提の確認にすぎない。これらの質問に対する回答こそが本来の質問の対象であるはず。質問の前提を確認しそこで終わる質問にどんな意味があるのか検討する必要がある。 ４⇒事前に制度を学習し担当者に尋ねればすむ質問が多く含まれている。 ７⇒「宮城野原貨物ヤードについてきょう現在本市の承知していること」「若林区の仙台工業団地の移転の状況」は事前に担当者に確認しておく必要がある。 ８⇒「法律の一部改正によって変わったことは何か」は事前に調査しておく必要がある。

平成26年第3回定例会（第2日目） 2014.09.11

発言順：2　加藤けんいち（市民フォーラム仙台）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：仙台市総合計画について ・実施計画に掲げる施策目標の達成状況についての市長の評価 ・基本構想に掲げる都市像の実現に向けて最も重要な取り組みは何か	0	0	0	0
２：仙台市実施計画の施策目標の一つである子育て応援社会づくりについて ・放課後児童健全育成事業の受け入れ人数や，認可保育所の定員数などの具体の数値目標の達成に向けて順調に進んでいるか ・既存の幼稚園や保育所などの施設からの円滑な移行に向けて，さらなる緩和措置を設けるなどの配慮の必要性 ・現在，多くの児童館、児童クラブが四十人を超えている状況にどのように対応されるのか ・小学校六年生までの拡大をどのように受けとめているか ・放課後児童対策について ・家庭的保育事業，小規模保育事業の促進が今後の待機児童解消に向けてどのような効果があるか	0	0	0	0
３：繰越額について ・明許繰越などを除く繰越額とその理由 ・不用額三百七十八億円余は妥当な水準か ・そもそもの予算編成に甘さはなかったのか ・新年度予算の編成に向けてさらなる綿密な取り組みの必要性	0	0	0	0
４：行財政改革プラン二〇一〇中間見直しについて ・行財政改革を進めていく上で，第三者による外部評価の導入を図ることも一つの策ではないか ・民間委託の拡大について	0	0	1	1
５：歳入の確保について ・税務事務の本庁集約化の検証の際に，債権回収の集約化や民間の力もかりた手法も議論の俎上に加えてみるべき ・自主財源比率の向上対策	0	0	1	1
６：職員数の削減について ・人員配置の見直しや業務の集約化など目まぐるしい変化の影響によるコミュニケーション不足の懸念 ・職場風土醸成に向けた取り組みと職員間，部局間における情報の共有体制、チェック体制のあり方	0	0	0	0
７：現市立病院跡地の利活用について ・現市立病院跡地について、売却することを基本に考えているのか。 ・売却するのであれば，その条件，スケジュール	0	0	0	0
８：東北大学農学部雨宮キャンパスの跡地利用について ・本市として，この間どのような対応をされてきたのか ・現在の状況	0	0	0	0

９：東日本大震災により被災された宅地を公共事業により復旧する造成宅地滑動崩落緊急対策工事について ・今後の公共事業による宅地復旧の見通しについて ・本市の独自支援による宅地復旧について八割近くの方々が申請をされていない状況を当局はどのように分析しているのか ・裁判や資金繰りなどで工事がおくれる宅地被災者に対応するためのさらなる延長についての当局の所見	0	0	0	0
10：大規模校の課題について ・仙台市立小・中学校の一定規模確保に向けた実施方針の見直しに着手したか ・大規模校の課題について議論されたか ・過大規模校の解消の具体的検討に入るべき	2	0	1	3
11：中小企業支援条例について ・本条例は理念条例を想定されているのか（より実践的な内容を網羅した内容となることが望ましい） ・本市独自の特徴を盛り込むのであれば市の責務を前面に打ち出すことも一つである ・条例制定に向けた当局の認識	0	0	0	0
12：本市のエネルギー政策について ・本市においても電気の特性を踏まえた施策展開が必要 ・エネルギーに関する基本政策の策定についての考え ・再生可能エネルギー推進を前面に打ち出すことへの疑問と当局の認識	0	1	0	1
13：災害時要援護者支援について ・災害時要援護者支援プランの名簿の更新の必要性 ・登録申請書の様式を変更し，どんな支援を必要としているのか把握する必要性	1	1	2	4
	3	2	5	10

【コメント】
２⇒現場の問題点がほとんど反映されていない。抽象的な課題を指摘して当局の対応を尋ねるだけの質問に意味があるのかどうか検討する必要がある。 ３⇒「明許繰越などを除く繰越額とその理由」は事前に調べる必要がある。「不用額三百七十八億円余は妥当な水準かどうか」は質問者が調べる事項。予算編成に甘さがあったかなかったかをはっきりさせ，それを指摘しつつ質問する必要がある。 ６⇒「職員数の削減」が及ぼした副作用を現場調査に基づき具体的に指摘する必要がある。情報の共有・チェック体制をどうするべきか質問者側が具体案を提示する必要がある。そのためには現場調査が不可欠。 12⇒本市のエネルギーの政策の現状とその問題点を調べ他都市のそれと比較し，何がよくて何が不十分かをつきとめ，それを提示して質問する必要がある。本市の現場の問題点の指摘が不足している。 13⇒調査に基づき他都市との比較も踏まえ具体的提言を伴った質問

平成26年第3回定例会（第2日目） 2014.09.11

発言順：3　鈴木勇治（自由民主党復興仙台）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：本市の財政見通し ・本市の財政見通しは本当のところどうなのか ・そろそろ蛇口の絞り加減を少々緩めてもいいのではないか	0	0	0	0
２：新年度の予算編成に向けた現時点での考え	0	0	0	0
３：国民健康保険事業の収納対策の取り組みについて ・本市の国民健康保険料の収納対策の状況と，今後の取り組み ・国民健康保険料の減免制度の背景やその狙い	0	0	0	0
４：東部地域の復興について ・東部地区の新しい農業や土地集積について，現在どのような状況にあるか ・県道塩釜亘理線の東側の農地の利用状況，進行状況	0	0	0	0
５：被災宅地支援事業について ・大半を占める公共事業の進捗の現在の状況 ・事業の完成に向けて，どのように対応していくのか ・平成二十七年度までに実施できない場合，震災復興交付金を返済することになるのか ・国の支援が縮小されたり打ち切られるような場合でも，市独自に制度を維持していくつもりなのか	0	0	0	0
６：宅地の復旧について ・土砂災害について事後的にならない予防的な観点から，先進的で積極的な取り組みの必要性 ・土砂災害対策工事の促進と土砂災害警戒区域の早期の指定を，宮城県に積極的に働きかけを行うべき ・積極的な土砂災害対策を進める	0	0	1	1
７：平成二十五年度仙台市下水道事業会計決算認定について ・累積欠損金の三十億円も含めた今後の経営の見通し ・東日本大震災で甚大な被害を受けた下水道施設の現在の復旧状況 ・現在の東部市街地の浸水対策の進捗状況や課題 ・浸水対策が必要不可欠な地域の今後の対策 ・アセットマネジメントの本格的な運用によって，具体的にはどのようなことを実施しているのか，これからアセットマネジメントをどのように活用しようとしているのか ・アセットマネジメントの国際規格ＩＳＯ５５００１の認証を日本で初めて取得したことによって何を目指そうとしているのか，今後の展開 ・復旧・復興事業完了後の本市下水道事業はどうあるべきか，今後の事業展望の検討状況	0	0	0	0
８：平成二十五年度仙台市自動車運送事業決算認定に関する件について ・これまでの仙台市自動車運送事業経営改善計画に基づく取り組みをどのように評価しているのか ・東西線開業に合わせたバス路線の大幅な再編に対し各種団体から要望書が提出されていることについてどのように対応するのか ・今後のスケジュール ・東西線開通後の利用実態を検証し、それに応じて、さらにその内容を見直す必要性 ・再編後のバス事業の経営の見通し	0	0	0	0

９：平成二十五年度仙台市ガス事業会計決算認定に関する件について ・なぜ赤字になってしまうのか，原料費調整制度の仕組みも踏まえ，その理由 ・原料調達は実際そのような状況にあるのか，どのような観点から契約をされどのような内容なのか ・ガスシステム改革が現在のガス事業に与える影響について，どのように認識しているか ・現時点における民営化に関する取り組み姿勢と今後の方向性 ・蓄積した技術の継承についての取り組み	1	0	0	1
10：内部統制について（市役所の業務をチェックできる内部統制の仕組みをいち早くつくることの必要性）	0	0	0	0
	1	0	1	2

【コメント】
３⇒収納対策の何が今問題になっているのか問題点を調査して質問する必要がある。「国民健康保険料の減免制度の背景やその狙い」は事前に調べる必要がある。 ４⇒いずれも事前に調査する必要がある。 ５⇒「公共事業の進捗の現在の状況」は事前に調べておく必要がある。 ７⇒「東日本大震災で甚大な被害を受けた下水道施設の現在の復旧状況」「現在の東部市街地の浸水対策の進捗状況や課題」「アセットマネジメントによって何を実施しているのか」は事前に調べておく必要がある。 ８⇒バス路線の再編の見通しをどのように行うべきか質問者の考えを提示して質問する必要がある。 ９⇒赤字の理由　原材料の調達状況は事前に調べておく必要がある。 10⇒どのようなチェック体制を導入すべきか質問者の考えを提示して質問する必要がある。

平成26年第3回定例会（第3日目）2014.09.12

発言順：1　鎌田城行（公明党仙台市議団）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：平成２５年度の当初の目標が果たしてどの程度達成されたと自己評価しているか	0	0	0	0
２：自主財源の確保に向けた一層の努力が求められるのではないか	0	0	0	0
３：東日本大震災からの復興について ・仮設住宅からの移転については計画に照らしていかほどの進捗がなされてきたのか ・退去の進む仮設住宅の今後の取り扱いについて（みなし仮設住宅のケア） ・プレハブ住宅にいまだ残らざるを得ない被災者に対する本市の行政責任者の姿勢 ・被災者の身に寄り添い続ける必要性 ・被災者の心のケアの支援の重要性 ・子供たちの成長と震災復興のあり方に目を向ける必要性	0	0	0	0
４：復興公営住宅周辺のまちづくりについて ・入居者が入居したときから既に困らない体制を保っておくべき ・バス路線を十分に補完するためのコミュニティバスやタクシーのサポート	0	0	1	1
５：防災対策について ・ハザードマップの活用について（決算年度においてどのような準備を練られて今回の配布に至ったのか）（配布後の活用に至る普及啓発の手だて） ・日常の維持管理業務について（老朽化の激しいバス路線などの幹線整備）（横断歩道や停止線，センターラインなど，道路の交通を規制するラインの適正な管理）（歩道や自転車通行帯の整備） ・ゲリラ豪雨への対策（ポンプアップ等の方策やその他の雨水対策も含め，整備の強化が一層求められる）	2	0	2	4
６：今回の復興公営住宅を初めとする新たな街区整備に合わせて，東西線各駅の進入口について追加を検討するべき	1	0	1	2
７：国連防災世界会議及び国連防災会議について ・市民の盛り上がりの創出について ・おもてなしについて ・障害者支援策と手話言語について	1	0	1	2
	4	0	5	9

【コメント】
３⇒「移転の進捗状況」は事前に調べる必要がある ５⇒調査を踏まえ具体的提案を伴った質問

平成26年第3回定例会（第3日目）2014.09.12

発言順：2　嵯峨サダ子（日本共産党仙台市議団）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：防災対策について ・土砂災害危険箇所に住んでいる住民に対し，わかりやすい資料を配付して説明会を開催すべき ・土砂災害特別警戒区域に関しては，指定，公表を促進すること，危険な区域への住宅の新たな建築等の開発行為の規制を図るべき ・大雨による浸水被害対策のための大幅な予算の増額を求める	1	0	1	2
２：震災からの復興をめぐって，市政のありようについて ・決算を見れば医療費免除は十分できたはず ・医療費免除対象をもとに戻すべき ・決算を見れば，お金だけためて被災者の復興をおくらせた１年だったのではないか ・復興基金を被災者支援にどんどん回して支援策を拡充すべき ・直接的な補助を拡大して，住まいの再建を大きく促進すべき ・復興公営住宅の整備戸数をふやす決断をし，ニーズに合わせた増設計画づくりに着手すべき ・旧長町支所跡地に復興公営住宅を建てることを再度求める ・市民には財政難だと思い込ませて，負担と我慢を強いるごまかしとお金の使い方を根本的に改め，市民の暮らしを優先する政治に転換すべき	1	0	2	3
３：国民健康保険について ・算定方式変更で上がった人へも減免を実施すべき ・国保広域化に反対し，国庫負担割合を引き上げるよう求めるべき	1	0	1	2
４：以前のように市独自で燃料費補助を行い，市民の健康と暮らしを守るべき	0	0	1	1
５：地下鉄東西線開業に伴うバス路線再編案について（これまでの市の再編案は撤回し，市民から出された意見を真摯に受けとめ，反映させるべき）	0	0	1	1
６：子ども・子育て支援新制度実施について ・各保育所，幼稚園での現在の利用者への説明も，市が責任を持って行うとともに，各市民センターごとに説明も徹底して行うべき ・新制度で希望する保育所へ入れるようになるのか，保護者の質問にどう答えるのか ・認定こども園の認定について統一的な条例としなかった理由と，家庭的保育事業等の基準，放課後児童健全育成事業の基準をそれぞれ別の条例としなかった理由 ・民間への支援，公立保育所の増設等を事業計画に盛り込む必要性	1	0	2	3
７：暮らしや経済に破綻をもたらす消費税の１０％への増税は中止するよう国に強く求めるべき	0	0	1	1
８：原動機付自転車や軽自動車等の市民税値上げについての市長の見解	0	0	0	0
９：医療介護総合確保推進法による介護保険制度見直しについて県内の自治体の状況を取りまとめて，制度改悪をやめるよう国に働きかけるべき	0	0	1	1
10：マイナンバー制について（市民に不利益をもたらすマイナンバー制は廃止するよう国に求めるべき）	0	0	1	1

11：住民の命と健康，安全を守る問題について ・指定廃棄物の最終処分場建設に関する問題（奥山市長は住民自治をどう考えているのか） ・１１月に自衛隊が計画する震災対処訓練に米海兵隊垂直離着陸機ＭＶ22オスプレイが参加する問題（仙台市として，市民の安全を守る立場から，オスプレイを使用したこのような訓練をやめるよう政府に対し申し入れるべき）	1	0	1	2
	5	0	12	17

【コメント】
７，８，９⇒国との関係を市議会で取り上げるのであれば質問方法を検討するべき。「ひとかけらも見られない」「ごまかし」（②）等の決めつけはない方が説得力が上がる。

平成26年第3回定例会（第3日目）2014.09.12

発言順：3　大槻正俊（社民党仙台市議団）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：現在の復旧・復興の取り組みの現状，市民生活の把握についての市長の認識	0	0	0	0
２：日本開催のサミットの仙台誘致申請について ・申請するに至った経過 ・仙台，東北の地域にどの程度の経済効果をもたらす予測なのか，開催都市での負担はどのようなものになるのか，市民生活にどのような影響があるのか ・誘致見通しと誘致へ向けての努力について	0	0	0	0
３：国連防災世界会議も含め，東北全体で発展することをどのように考えられ，取り組んでいくのか	0	0	0	0
４：国連防災世界会議までの観光面での整備，取り組み	0	0	1	1
５：福島第一原発事故の影響とその後の対応，対策について ・女川原発再稼働はすべきでないとの姿勢を明らかにしていくべきではないか ・原子力発電に依存しない地域社会の実現の道を一段と進めるまちづくりを取り組んでいくべきではないか ・ごみ焼却施設など４施設となっている新電力のさらなる採用，活用にどのように取り組んでいくのか ・ビルエネルギー管理システムなど，さらなる省エネ設備の導入にどのように取り組んでいくのか	2	0	1	3
６：福島第一原発の事故対応で仙台市が取り組んだ事業及び経費について ・今後どのように東京電力に求め，今後どのように国に求めていくのか ・東北の母都市として連携して求めることの必要性	1	0	1	2
７：平成２５年度仙台市一般会計・特別会計歳入歳出決算認定に関する件 ・歳入確保のためにどのような努力をされてきたのか ・経常収支比率が９７．３％で，前年度と比べて０．８ポイント悪化していることの分析 ・市債残高の縮減の今後の取り組み ・引き続き，特別交付税をしっかり確保していくことの必要性 ・寄附を拡大するためにどのように取り組んでいくのか ・東日本大震災による家屋の評価額がどのように市税収入に変化があらわれると想定されているのか ・２７年度からの３年間の収支差約８８６億円は十分な検証に基づくものか。今後の財政状況の見通し	1	0	1	2
８：平成２５年度仙台市自動車運送事業会計決算認定に関する件 ・乗客増，収入増の理由の分析 ・運転手の正社員化，運転手の年齢構成の適正化にどのように取り組まれたのか	0	0	0	0
９：バス路線の再編について ・地域要望に的確に応えるため，どのように第二次案をつくっていくのか ・宮城交通にも，地域要望での説明会での声，独自に寄せられている声を確実に伝えているのか	0	0	0	0

10：平成２５年度仙台市高速鉄道事業会計決算認定に関する件について ・南北線で乗客数が３％，乗車料収入が２．２％増加した要因 ・東西線は開業に向けたプロモーション活動の重要性と開業日を明確に示していく必要性	0	0	1	1
11：平成２５年度仙台市病院事業会計決算認定について ・取り扱い患者数が，入院，外来とも減少していることをどのように分析し，対策を取り組んできたのか ・精神科医療について，救急外来，入院体制など充実に向けてどのように努力されてきたのか，今後どう対応し，取り組んでいくのか ・仙台医療圏の地域医療体制の中核病院として，どのように医療機器及び医療情報システムの整備をしてきたのか ・東北薬科大学の医学部設置について，どのような病院同士の連携を考えていくのか	0	0	0	0
12：適応指導教室，杜のひろばの半数が学校内に設置されている理由と（仮称）杜のひろば・八木山でどのような取り組みを目指すのか	0	0	0	0
13：不登校にさせないための未然防止の取り組みについて ・今後の取り組みの重点 ・サポート体制の充実と教職員が子供にしっかり向き合える体制づくりの重要性，それについての考え	1	0	1	2
14：仙台市幼稚園型，保育所型及び地方裁量型の認定こども園の認定の要件を定める条例について ・子育て，保育制度の拡充のため，本市の保育行政で特に取り組んでいこうとされているところは何か ・新制度について，保護者，事業施設関係者に理解できるように周知徹底するさらなる努力の重要性 ・新制度の実施に当たっての基本の考え ・保護者負担が増大しないようにすべき。仙台市の単独補助を継続，拡充すべき。認可外保育施設の新制度移行後の処遇には，不利益が出ないよう気配りが必要。 ・深刻な現状を深く認識するべき ・本市において，市民の方々から切実な要望がある一時預かり，特定保育，多胎支援の取り組みをこの際にもっと強めていくべき	0	0	1	1
15：放課後児童健全育成事業について ・新たな事業展開をどのように位置づけするのか，基本的な考え方 ・設備の基準の検討経過，利用者，児童館の指定管理団体，児童館職員の意見をどのように聴取し，反映させたのか。２７年度当初に向けたスケジュール ・小学校３年生を対象とする現在でも，希望者が利用できない状況をどのように考え，対策していくのか	0	0	0	0
16：仙台市児童福祉施設条例の一部を改正する条例について ・公立保育所をしっかりと維持して行うべき ・保育所に求められている役割，公立保育所の役割，あり方の検討してきた結果 ・八木山保育所の定員。保育サービスの拡充の点ではどのような特色があるのか。設置運営主体への公立保育所の引き継ぎはどのように進めていくのか	0	0	0	0
17：仙台市駐車場条例の一部を改正する条例について ・地下鉄八木山動物公園駅駐車場の周知徹底の必要性 ・パークアンドライド駐車場の駐車料金について（動物公園駐車場に駐車せず，パークアンドライド駐車場を利用するということになってしまわないか）	1	0	1	2
	6	0	8	14

【コメント】
８⇒「乗客増，収入増の理由」は事前に調査する必要がある ９⇒地域要望に的確に応えるため第二次案をどうするべきか質問者の考えをはっきり出すべき 10⇒「南北線で乗客数が３％，乗車料収入が２．２％増加した要因」は事前に調査する必要がある 11⇒「取り扱い患者数の減少の原因」は事前に調べておく必要がある。医療情報システムの整備も事前に調べておく必要がある 12⇒半数が学校内に設置されている理由や（仮称）杜のひろば・八木山の目的は事前に調べてから質問する必要がある 14⇒認定こども園の問題点が深掘りされていない 15⇒「事業展開の方針」「設備の基準の検討経過」などは事前に調べておく必要がある 16⇒公設公営の保育所と民営化した公立保育所を比較し利用者にとってどのような差があるのか利用者のメリットと財政負担を総合考慮し，なお前者を維持するべきなのかどうか総合調査が必要。「定員」や「特色」は事前に調べる必要がある

平成26年第3回定例会（第4日目） 2014.09.16

発言順：1　菊地崇良（自由民主党・仙台）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：農業園芸センターについて ・再整備事業者との基本協定の解除の経緯 ・次点交渉権者の全農みやぎからの回答 ・現時点における市の農業園芸センター再整備に関する方針 ・次点交渉権者との協議がまとまらない場合の今後の再整備に向けた考え	0	0	0	0
２：国家戦略特区提案について ・国家戦略特区の本市にとっての意義とデメリット ・これまでの取り組みの経緯。国によるヒアリングの感触。今後の国とのやりとり，認可，適用の時期等。 ・他都市に所在したままの関連企業，大学が，本特区に参画の名を連ねることによって，本市をハブとし，現地においてその適用を受けるようにすることができるかどうか想定しているのか ・これまでの各基礎自治体との事前の調整と今後の連携のイメージ。 ・既存事業あるいは計画との関係，効果 ・経済，金融面以外での効果を期待している分野 ・他都市のほかの特区提案のメニューの活用	1	0	1	2
３：東北の最後のとりでとしての仙台の役割について ・今後進められる国と地方自治体の緊密な連携強化の体制について，現在，市としてどのように把握し，構想しているのか ・今後の情報収集，分析を含む対応は，まちづくり政策局が担っていくべき ・プラットホーム化の必要性 ・連携強化のための組織構成と牽引する責務	0	0	1	1
	1	0	2	3

【コメント】
１⇒解除の経緯，全農みやぎからの回答等は事前に調べておく必要がある。 ２⇒国家戦略特区の本市にとっての意義とデメリット，これまでの取り組みの経緯等は事前に調べておく必要がある。

平成26年第3回定例会（第4日目） 2014.09.16

発言順：2　渡辺敬信（市民フォーラム仙台）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：地下鉄東西線開業にあわせたバス路線再編に関して ・意見や要望についての精査，分析は，現在どの程度まで進んでいるのか。その概要 ・第一回市民説明会での意見や要望を反映できるのか，反映できないのか ・多くの市民がバス路線再編について知らないと回答していることについて，当局は実態を把握しているのか ・バス路線再編についての利用者へのさらなる周知 ・バス路線再編の概要についてわかりやすく記載したものを，車内のあいている広告枠に掲示すべき ・市民の足であるバスは，朝夕の通勤時間帯と，高齢者が多く利用する日中の時間帯については，最低でも一時間に一本程度は現行の新寺線交通局大学病院行きの路線を残して継続すべき	1	0	1	2
２：主要国首脳会議，サミットの誘致について（県を初めとして他市町村との連携，協力体制など，サミット開催に向けた準備をどのように進めていくつもりか）	0	0	0	0
３：子供たちが遊ぶ公園の情報提供のあり方について（現在の公園一覧について更新を図り，より詳細な情報をホームページに掲載すべき）	1	0	1	2
４：仙台七夕花火祭について ・仙台七夕花火祭が資金の面で危機的状況にあることを市長は把握しているのか ・主催者団体の資金獲得のための方策についての本市の考え	0	0	0	0
	2	0	2	4

【コメント】
１⇒地下鉄東西線とバス路線再編は一体の関係にある。直通ルートの廃止は計画時に予想できたこと。地下鉄東西線の計画時に議会で議論すべきではなかったか。一時間に一本程度，現行の新寺線交通局大学病院行きの路線を残して継続することで利用者の不満は解決するのか。利用者の不満と質問者の意見との関係が不明。

平成26年第3回定例会（第4日目） 2014.09.16

発言順：3　庄司俊充（自由民主党復興仙台）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：小規模企業の支援策について ・中小企業の活性化に関する条例の制定に向けて，具体的にどのような手法で検討を進めておられるのか，制定までのスケジュールと現時点での進捗状況 ・本市の条例が成立されることにより，どのような支援につながると考えるのか ・条例を制定した後に，どのような取り組みで中小企業の活性化と支援を進めていこうと考えているのか ・市長の市内中小企業の活性化を含めた地域経済活性化に取り組む姿勢と意気込み	0	0	0	0
２：超高齢化社会における地域再生政策について（人口減少社会にどのように対応していくのか）	0	0	0	0
３：農業用水路の整備改修について（農業用水路の整備，改修の一層促進と当局の所見）	0	0	0	0
４：林道の整備改修等について ・整備してきた林道の状況調査 ・林道の改修や整備をどのように進めるのか	0	0	0	0
５：バイオマスの利活用推進について ・家庭からの生ごみの発生抑制やリサイクルに，さらに力を入れていくべき ・バイオガス発電を行っている民間事業者などとも適切に連携し，市内における安定的かつ最適な資源循環の仕組みの構築を目指すべき	0	1	1	2
６：小型家電リサイクル法に関連して ・回収後，どのようにリサイクルされるのか，回収した後の再利用までの流れ ・本市としては，どのようにこの事業を展開していくのか	0	0	0	0
７：選挙ポスター掲示板の位置の見直しと，投票時間繰り上げについて ・より適切な掲示場所への見直しが必要な時期ではないか ・いつでも事前投票ができる体制を整備し，広報活動を充実すれば，全体の投票時間の一時間程度の繰り上げが可能ではないか	1	0	1	2
	1	1	2	4

【コメント】
３，４，５⇒現状の調査と分析が欠けている。３についていえば，「老朽化した農業用水路の現状」と「土地改良区や農家の方々の個別の対応の限界」を足で歩いて調べる必要がある。４の道幅が狭く，消防に支障を来している個所も自分の目で確認して，適切な維持管理が出来ていない理由を探る必要がある。５のバイオガス発電を行っている業者との連携も，市としてどのような連携が可能か，現場に出て行って調べる必要がある。

平成26年第3回定例会（第4日目） 2014.09.16

発言順：4　佐々木真由美（公明党仙台市議団）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：元気な高齢者づくりについて ・介護予防のこれまでの取り組みと今後の取り組み ・介護支援ボランティア制度の導入についての所見	1	1	1	3
２：学校の長寿命化改修について ・文部科学省の学校施設の長寿命化改良事業を活用して，長寿命化を図る取り組みを進めるべき ・学校トイレの改修について （学校の体育館のトイレの災害への備え方） （学校校舎内のトイレの改修） （一年でも早く前倒しして進めるべき）	2	0	2	4
３：市民利用施設のトイレについて ・和式トイレの数を減らしても，洋式トイレに変更するべき ・市民利用施設トイレの洋式化の年次計画を立て，早急に進めるべき	2	1	2	5
	5	2	5	12

【コメント】
２，３⇒調査を踏まえ，具体的提言を伴った優れた質問

平成26年第3回定例会（第4日目） 2014.09.16

発言順：5　ふるくぼ和子（日本共産党仙台市議団）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：子供の権利を保障するための仙台市の教育行政のあり方について ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律を成立させたことについて，立場を超えて多くの教育関係者や自治体関係者が反対し，疑問を持っていることを，市長はどう捉えておられるか。 ・独立した行政機関である教育委員会が，政治の介入によって教育内容がゆがめられることがあってはならないが，市長はいかがお考えか。教育委員会が果たしてきた役割 ・教育委員の意見が活発に出され，合議によって運営されるようすべき ・仙台市でも，教育委員が保護者や子供，教職員の声を聞き，そこにある願いと結びついて実践する教育政策を進めるべき ・安倍政権が狙う教育再生，教育改革に対し，市長はその役目を果たそうとしてはいないと思うが，市長の所見 ・日本共産党の教育委員会改革の基本方向についての所見 ・直ちに少人数学級の実施に向けた検討に入るべき。必要な教職員の増員と，国に財源保障を求めることとあわせ，実施の方針を明確にすべき ・学校栄養士と事務職員は学校専任で，子供の教育を受ける権利をともに守る職員として，必要人数を確保，配置すべき ・特別支援教育指導補助員や特別支援学級指導支援員を減らさず継続するよう求める ・子供たちにとって学校が安心していられる場所となるよう，要望に応え切れるトイレの改修計画を持って，修繕，改修を急ぐべき ・もっと財政投入をして，子供たちの教育条件を整備をすべき ・子供の権利としての教育をしっかり守る教育行政の責任を仙台市が果たすことを強く求める	1	0	2	3
	1	0	2	3

【コメント】
１⇒安倍政権が狙う教育再生，教育改革に対し，市長がその役目を果たそうとしてはいないと判断する根拠が不明。トイレの改修は調査を踏まえた質問。

平成26年第3回定例会（第4日目） 2014.09.16

発言順：6　相沢和紀（社民党仙台市議団）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：奥山市長は，今日の議論と市民生活を見て，どのように感じておられるのか，どのように対応されようとしているのか	0	0	0	0
２：地方教育行政法の改悪について ・奥山市長はどのような考えのもとに対応されるのか ・総合教育会議などについて，どのような認識のもとに対応される考えか	0	0	0	0
３：農業委員会制度の見直しについて（杜の都仙台を標榜し，復興計画においても緑の再生を掲げる本市として，どのように認識し，対応される考えなのか）	1	0	0	1
４：復興計画の進捗と今後の対応について ・復興計画に記された十のプロジェクトの進捗と，大きな変更点 ・復興計画期間終了後の事業運営をどのような組織体制で行うのか ・事業の促進に向けた人的配置について，どのように対応されるのか	0	0	0	0
５：新たなコミュニティーづくりについて（新たな地域コミュニティーづくりをしっかりとサポートするため，各区役所にまちづくりや町内会活動に精通した職員を配置し，対応すべき）	0	0	1	1
６：環境美化推進について ・ごみの散乱のない快適なまちづくりに関する条例の意義を啓蒙し，市民，企業，そして行政が一体となって実践すべき ・仙台市を，一人一人の意識変革によって世界に誇れる杜の都仙台にすべき	0	0	1	1
７：環境教育の拠点施設整備について（本市の環境問題や環境教育の施設を，復興事業局や環境局という枠にとらわれず，垣根を超えて震災記録や防災教育の場と環境教育の場を一体化した総合的な教育施設として整備すべき）	1	0	1	2
	2	0	3	5

【コメント】
１⇒質問のポイントが絞られていない。 ２，３，４⇒この質問に対する当局の回答こそが，本来の質問の対象であるはず。質問の前提を確認するに留まる質問の実効性を検討する必要がある。 ４⇒「復興計画に記された十のプロジェクトの進捗と，大きな変更点」は事前に調べる必要がある。

平成26年第3回定例会（第4日目） 2014.09.16

発言順：7　及川英樹（みんなの党・みんなの仙台）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：国民健康保険事業について ・受診率と早期発見の精度を上げ，早い段階で治療に結びつけ，医療費の抑制につなげる必要があるのではないか。 ・特定健診の積極的支援の重要性 ・保健指導対象者に対し，早期に保健指導向上対策を講ずるべき ・保健指導の対象者に対し，かかわり方の工夫が必要 ・個別支援の重要性 ・保健指導期間の六カ月を過ぎた後の取り組みの重要性 ・ＣＫＤについて，早い段階で治療に結びつける体制づくりの必要性	2	2	2	6
２：生活習慣病予防に向けた運動の動機づけについて ・日ごろからそれぞれの地域で活動している団体や市民の実態調査など，さまざまな状況を把握し取り組むことで，健康増進が図られ，病気の予防につながるのではないか ・親しみのあるウォーキングコースづくりの必要性 ・昨今の医療費などを鑑み，日常生活において運動の動機づけを図り，医療費の抑制に向け一層の取り組みの重要性	1	1	1	3
	3	3	3	9

【コメント】
１⇒他都市の事例を踏まえ，具体的な提言を伴った優れた質問

平成26年第3回定例会(第5日目) 2014.09.17

発言順：1　大泉鉄之助（自由民主党）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：多発する不祥事について ・組織が着実かつ綿密に機能していれば未然に防げたのではないか ・全組織を挙げ，全職員を挙げて，全体の奉仕者たる公務員の原点に立ち，危機感を持って，不祥事再発の未然防止対策のプロジェクト再構築が求められているのではないか	0	0	0	0
２：係長職昇任試験について ・受験者数が減少傾向にあることをどのように分析され，受けとめているのか ・係長職昇任試験の受験を諦めてしまう職員，数度の挑戦に失敗して諦めてしまう職員が意気に感じ，責任を持って仕事に邁進できる立場，肩書，処遇を検討する必要性	1	0	1	2
３：市バスについて感想（宮交バスの職員と市バスの職員との根本的な心根の違い）	1	0	0	1
４：大震災復興後の本市の未来社会の夢の必要性（二年後の主要国首脳会議誘致）	0	0	0	0
	2	0	1	3

【コメント】
１⇒「組織の着実かつ綿密な機能」とは何か。これと「多発する不祥事」がどのような関わりがあるのか不明。不祥事の原因の詳細な調査と分析が必要 ２⇒重要な指摘。公務員としての生きがいは不祥事の防止にとっても重要なはず

平成26年第3回定例会(第5日目) 2014.09.17

発言順：2　やしろ美香（自由民主党・仙台）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：ＩＣＴの活用と市民への広報について ・基本的な考え ・仙台市のＩＣＴ計画の進捗状況 ・現在，各部門がどのソーシャルメディアをどのように活用しているのか，その運用実績 ・情報を受け取る側の市民は，仙台市のソーシャルメディアに対して，どれほどのいいねをクリックしてくれているのか，フォロワーはどの程度なのか ・新しいメディアに対する広報，広聴活動についての見解 ・来年開催される国連防災世界会議について，現在までのソーシャルメディアを活用した広報活動と今後の展開について ・今後の国連防災世界会議のプロモーションについての市長の見解	0	0	1	1
２：被災者の心のケアについて	0	0	0	0
３：市立病院事業計画について ・本市立病院の医師の勤務実態 ・医師不足の解消には，いかに若い医師が集まる環境をつくるかが課題 ・新市立病院における院内保育所の準備状況と，育児短時間勤務制度の検討状況 ・医師や医療スタッフの不足についても，病院が独自に迅速に対応できるような体制の必要性 ・現在の七対一算定病床を三十六万床から十八万床へ削減する新たな医療提供体制は病院事業経営の根幹にかかわる重大な問題ではないか ・がん拠点病院の指定を受けることも考えるべきではないか ・みやぎ医療福祉ネットワーク，通称ＭＭＷＩＮに入るための現在の準備状況，問題点 ・精神科医師の確保の問題点（求人票の記述量が少ない，病院の魅力を伝えていない，面接の対応も熱心でない，熱意が伝わらない）について	2	0	2	4
	2	0	3	5

【コメント】
１⇒「現在の実施されている仙台市のＩＣＴ計画の進捗状況」や「各部門がどのソーシャルメディアをどのように活用しているのか，その運用実績」等は事前に調べる必要がある ２⇒仙台市の被災者の心のケアの何が不足しているのか，それをどうするべきなのか，現場の問題点の把握と具体的な改善策が欠けている ３⇒市立病院事業の問題点を指摘した優れた質問。但し「本市立病院の医師の勤務実態」「新市立病院における院内保育所の準備状況と，育児短時間勤務制度の検討状況」は事前に調べる必要がある

平成26年第3回定例会(第5日目) 2014.09.17

発言順：3　小野寺健（市民フォーラム仙台）

質問	①事前・現場調査(0～4点)	②他都市との比較(0～2点)	③改善案(0～3点)	合計
１：仙台市の観光姉妹都市である徳島市との関係について ・仙台七夕まつりにおいての阿波踊りの仙台市民への告知について（もう少し積極的に，また工夫が必要） ・すずめ踊りの派遣の人数について（来年以降は例年並みの体制での派遣を求める）（予算づけする財政担当者も実際の状況を把握し，必要な予算措置をとることを求める）	1	0	1	2
２：外国人客向けの消費税免税について ・現在，仙台市の中でどの程度免税販売店があり，年間売り上げはどれくらいか ・各種団体と連携し，免税店の拡大に向けて支援策などを考えていくべき	0	0	1	1
３：学力テストの結果活用について ・昨年度の全国学力・学習状況調査の結果をどのように活用してきたのか ・先般，静岡県知事が行った学力テストの結果発表について，教育局はどのように考えるか ・釧路市の基礎学力基本条例の趣旨を踏まえ，仙台市はどのような位置づけのもと取り組んでいるのか	0	0	0	0
４：公共施設マネジメントプランについて ・推進体制，人員配置の現状認識 ・コミュニティ・センターの配置の基準について（市の基準の弾力的な運用）（受益の不均衡という問題点）（特例もあってしかるべき） ・本庁舎機能の集約化に向けた検討状況について（本庁舎機能の集約化に向けて，どのような工夫やシミュレーションを行っているのか。あわせて，上杉分庁舎ができることによって，年間賃借料はどの程度削減することができるのか）	1	0	2	3
５：ふるさと納税について（杜の都仙台・絆寄付のリモデル，ふるさと納税制度の拡充について所見）	1	1	1	3
６：劇場法について ・仙台市も条例の制定を視野に入れてみてはいかがか ・仙台市の文化拠点活性化に向けた運営方針を定めるための準備状況，市民会館と県民会館の将来のあり方についての検討状況，日立システムズホール仙台の活性化についての昨年の質問以降の取り組み ・音楽ホール建設に向けて，現況どのような検討を重ねているのか	0	1	0	1
	3	2	5	10

【コメント】
２⇒「免税販売店の数」は事前に調べておく必要がある ３⇒「どのように活用してきたのか」は事前に調べておく必要がある。結果発表と釧路市の基礎学力基本条例について質問者はどう考えているのか，質問者の見解を抜きにして当局の見解を確認することにどの程度意味があるのか検討する必要がある ４⇒コミュニティ・センターの配置の基準についての質問は調査を踏まえた質問。本庁舎機能の集約化に向けた検討状況については事前に調べて，集約化の工夫のどこに不足があるかを指摘する必要がある ６⇒準備状況や検討経過など，この質問に対する当局の回答程度のことは事前に調べておく必要がある

平成26年第3回定例会(第5日目) 2014.09.17

発言順：4　渡辺博（自由民主党復興仙台）

質問	①事前・現場調査(0～4点)	②他都市との比較(0～2点)	③改善案(0～3点)	合計
１：法定外公共物の管理について ・無断占用あるいは無断使用 ・使用料あるいは減免の適用についての所管の基準と整備の必要性 ・状況を把握の上，適切な取り組みを求める ・法定外公共物の適切な管理と利用料，売り払いによる市収入増	1	0	1	2
２：内水面利用について ・今日まで仙台市は，公園の内水面の利用，活用をどのように取り組み，利用していたのか ・親水空間，観光資源としての可能性	0	1	0	1
３：教育委員会における情報モラル教育，研修について ・情報モラルの涵養について昨年どのような視点で取り組んでこられたのか ・教師に対する研修 ・研修の効果の評価と検証 ・本市独自の情報モラル教育がすべての学校で行われていないのはなぜか ・インターネットに関する安全教育の今後の取り組み	0	0	0	0
４：ＮＩＥ教育について ・ＮＩＥ教育の不断の検証と改善の必要性 ・昨年までの取り組み，その評価，課題意識 ・研究協力校以外の学校のＮＩＥ教育の実践内容 ・特定の新聞に偏っているのではないか ・十分な費用を充てているのか ・地元紙と並んで全国紙各紙そろえ，教師の教育活動に資することを考えてもよいのではないか	0	0	0	0
５：学校敷地の有効利用について（教育委員会として昨年までの取り組み，今後の考え方）	0	1	0	1
６：仙台市職員の公務員としての意識の涵養と維持についての取り組みについて（昭和二十六年制定の仙台市職員の服務の宣誓に関する条例に基づく宣誓の，折に触れての復唱あるいは掲示などを考えてはいかがか）	0	0	1	1
７：職員の身分を明らかにする名札について ・仙台市職員が名札に無頓着な原因は要綱にあるのではないか，なぜ名札を着用するのかが明記されていないからではないか ・公務員としての意識の喚起のため，一段の取り組みが必要ではないか	0	1	1	2
８：市民協働について ・昨年一年間の取り組みについて ・改めて被災者の意見を直接聞き取り，実現の可能性，不可能性の整理をすべきときではないか ・音楽ホールを建設するに当たって，市民公募債を発行することが有効ではないか	0	1	1	2
	1	4	4	9

【コメント】
１⇒無断占用あるいは無断使用の現状を詳しく紹介する必要がある。使用料の基準の整備についても現場でどのような問題が生じているのかを詳しく明らかにする必要がある。現場の問題点が明らかにされていない ２⇒仙台市の内水面の利用，活用の現状を調べて問題点を把握して質問する必要がある ３⇒昨年の取り組み，教師研修と効果，情報モラル教育が全ての学校で行われていない理由は事前に調べる必要がある ４⇒不断の検証と改善とは何か具体的に明らかにする必要がある。昨年までの取り組みは事前に調べておく必要がある。研究協力校以外の学校のＮＩＥ教育の実践内容も事前に調べておく必要がある。特定の新聞とは何かを明らかにする必要がある。偏っているかどうか，十分な費用を充てているかどうかは事前に調べておく必要がある ５⇒本市として学校敷地をどのように有効利用すべきか質問者の考えを明らかにして質問する必要がある。教育委員会の取り組みは事前に調べておく必要がある

平成26年第3回定例会(第5日目) 2014.09.17
発言順：5　小野寺利裕（公明党仙台市議団）

質問	①事前・現場調査(0～4点)	②他都市との比較(0～2点)	③改善案(0～3点)	合計
１：仮設住宅の被災者への支援について ・高齢者の孤立（プレハブ仮設住宅の丁寧な見回り体制の強化が求められている） ・コミュニティー形成の問題（移転先でのコミュニティーがスムーズに推進されるように，市が間に入り，調整することが重要） ・復興公営住宅への移転後の心のケアの充実	2	0	2	4
２：消費者被害について ・相談件数，被害総額ともに，年々増加している状況に対して，本市としてどのように総括しているのか ・高齢者対策 （深刻化している特殊詐欺についての本市としての認識と，これまでの取り組み） （特殊詐欺の根絶に向けたさらなる取り組みの強化） （地域ぐるみで高齢者世帯の見守り体制を強化し，悪質な事業者や詐欺から高齢者を守る取り組みが急がれるのではないか） ・消費者教育推進法について （学校教育の現場での取り組みについて，本市としてどのように総括しているか） （消費者担当部局と教育委員会が連携を図り，地域の協力も得ながらの消費者教育の開催）	2	2	2	6
３：子供の貧困について ・本市の現状に対する認識 ・低所得者の子供のための学習サポート事業のさらなる拡大と学習支援ボランティアの確保，学習サポートの場所の確保 ・この事業を推進するに当たり，対象家庭へのより丁寧な周知方法も含め，本市としてどのように取り組んでいくつもりか	2	0	2	4
	6	2	6	14

【コメント】
１，２，３⇒いずれも調査を踏まえ，具体的な改善案を伴った優れた質問

平成26年第3回定例会(第5日目) 2014.09.17

発言順：6　すげの直子（日本共産党仙台市議団）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：本市の行財政改革プランがもたらす影響と，その根拠ともなっている財政見通しについて ・行革で，今まで以上の職員削減を掲げながら，区役所のまちづくり拠点機能の強化や，区役所と本庁間での地域ニーズや課題の共有化を図ることができるか ・行革プランでは，あらゆる業務への非常勤職員の活用や，業務委託化が挙げられているが奥山市長がこういう姿を目指しているとしたら大きな誤りではないか ・図書館などの社会教育施設に指定管理者制度の導入を図ることは認められない ・教育施設に指定管理者制度を導入するメリットが一体どこにあるのか ・市民の命や安全をリスキーにするような行革を，市民は望んでいないのではないか ・低い賃金で市の仕事を担うワーキングプアを，市みずからが大量に生み出している路線とは決別すべき ・非正規で働く方の待遇改善や，委託先の給与引き上げのための委託料の増額を求める ・毎年二月と八月に出す財政見通しを出せない理由 ・予算編成時と決算時の数字の乖離が激し過ぎる理由 ・未来のまちの形が大事という理由さえあれば，税金を幾ら投入してもいいとする市の姿勢にこそ，財政難に陥る原因があるのではないか ・公共施設や図書館などの位置づけを高め，機能を充実させる方向こそ，今，本市に求められている行財政の改革ではないか	2	1	2	5
	2	1	2	5

【コメント】
１⇒行財政改革プランの問題点を整理した優れた質問。経費削減につながっているのかいないのか更に詳しいデータに基づいて質問をする必要がある。市民に対するサービスと安全の両面で民間委託と市直轄を比較し，どのような差があるのか実態調査を行い，調査結果に基づき質問する必要がある

平成26年第3回定例会(第5日目) 2014.09.17
発言順：7　小山勇朗（社民党仙台市議団）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：防災対策について ・土砂災害ハザードマップについて （特別警戒区域と警戒区域の区分けした違い） （配布後は地域に任せた取り組みになるのか） （似通った色では濃淡の判別が難しいし，もっと一目でわかるような原色で表示し，誰が見てもわかりやすくすべき） ・急傾斜崩落，地すべり特別警戒区域及び土砂災害の危険地域に対する当局の取り組み姿勢が具体的に示されていないのではないか ・特定された危険区域住民に，命の大切さ含め，強く訴えていくことも大切 ・広島市の災害を考えれば，砂防ダムの建設や宅地開発事業者へ開発に関する義務づけも，大きな役割を果たすのではないか ・開発業者の許可権者，建築確認申請の許可権者の責任というものを考えるとき，土砂災害特別警戒区域なり危険区域については，地層や地質を十分含めた上での判断が必要ではないか	1	1	1	3
２：浸水対策について ・ゲリラ豪雨に対し，現在の整備水準で対応できるのか ・雨が降るたびに排水が悪く床上，床下浸水等の被害が発生している箇所に対する対策が急務 ・若林三丁目で進められている局所的な排水ポンプ施設の設置や排水先の変更などを早急に対処すべき	1	0	2	3
３：地域医療介護総合確保推進法による負担増と給付縮小の改悪について ・自己負担額の引き上げによる利用抑制 ・要支援一，二，約百六十万人の訪問，通所介護を介護保険の予防給付から市町村の総合事業に移行されることにより市町村間とサービスの両方に格差が生じることへの不安 ・要支援者の介護保険外しは，認知症ケアに深刻な影を落とすことになるのではないか ・要支援者の中には，かなりの認知症が含まれていくのではないか ・今，必要なのは，要支援者，いわゆる軽度の認知症の保険外しではなく，適切かつ専門的なヘルパーなどによるケアではないか ・要支援者に対する受給権の侵害 ・公的介護保険の適用縮小と企業参入による高齢者や障害者の介護保険からの締め出し ・総合事業を行うことになる仙台市の対応	2	0	2	4
４：放射能物質汚染廃棄物について ・市内全域における放射能濃度の測定について（一メーターの空間線量の特に高い濃度の地域はないのか） ・局所的にゼロセンチで〇・二三マイクロシーベルトを超える秋保地区のマイクロホットスポット，雨どい下の腐葉土，落ち葉の処理について （自宅敷地内に保管の不安） （行政がまとめて一時的に保管できないのか） （秋保地域の再調査は，地元の要請がない限り継続した調査は行わないのか） ・仙台市の避難計画をいつまでにどのような内容を踏まえて作成するのか ・女川原発の再稼働反対の申し入れを早急に行うべき	1	0	1	2
	5	1	6	12

【コメント】
２⇒調査を踏まえて具体的な改善案を伴った質問 ３⇒地域医療介護総合確保推進法の問題点を整理した質問

平成26年第3回定例会（第6日目）2014.09.18

発言順：1　早坂あつし（みんなの党・みんなの仙台）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：社会問題化している危険ドラッグについて ・製造，販売を禁止する条例を早急に施行する必要があるのではないか ・危険ドラッグの店舗販売と自動販売機での販売の状況 ・本市では，学校教育の中で，児童生徒などに対してどのように危険ドラッグ防止への取り組みを行っているのか ・これまでの学校からの相談件数などの現状	0	1	1	2
２：食育について ・本市の市民の食生活をめぐる課題について認識 ・第二期目を策定した仙台市食育推進計画を踏まえた，食育に対しての取り組み ・本市で取り組んでいる家庭食育について所見	0	0	0	0
３：仙台自分づくり教育と道徳について ・子供たちに有効とされておりますコミュニケーション教育や言語活動をどのように考え，プログラムを開発，実施していくのか ・自分づくり夢教室の現状と今後，各学校での新たな夢教室の開催についての意向と所見 ・将来を担う子供たちや若者たちのために，教育施策を含めた市長の所見 ・本市の教育としての礼節に対する考え	0	0	0	0
	0	1	1	2

【コメント】
１⇒「危険ドラッグの店舗販売と自動販売機での販売」「学校教育の中の取り組み，学校からの相談件数」は事前に調べておく必要がある ２⇒質問があまりにも抽象的。本市と食育との関係を調査し，ポイントを絞って質問する必要がある ３⇒これも質問が抽象的。現場調査を重ね，他都市の事例と比較し，問題点を絞り具体的な提案を持って質問すべき

平成26年第3回定例会（第6日目） 2014.09.18

発言順：2　加藤和彦（自由民主党・仙台）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：認知症対策について ・市では現在どのような対策を進めているか，今後の対策の進め方 ・地域包括支援センターの機能や仕組み，活動の範囲と活動状況，地域との連携の理想と実態，今後取り組む課題 ・若年性認知症の兆候を見逃すことのないように，頻繁に啓発の機会を設けるよう，積極的に担当機関を機能させなければならないのではないか ・予防医学的な取り組みはできないのか，認知症にかからない体質づくりは本当に不可能なのか ・認知症対策推進会議の根幹をなす市立病院の精神科の医師の不足と喜んで勤務できる病院の体制づくり ・市の認可した認知症高齢者対象の介護施設の現在数と，認可を求める開所希望施設の現在数，利用状況，問題点 ・独居認知症高齢者の実例についての地域生活と市の機能についての当局の考察 ・市としては，どの組織を中核として活用し，どのようにして地域の中に介護，見守りなどを浸透させる計画なのか，また，今後急速に増加すると見込まれる軽度の認知疾患者を早期診断，早期対応するために，どこで診断を受ければよいか	0	0	0	0
	0	0	0	0

【コメント】
１⇒市の認知症対策の現場についての基礎的な調査が不足している。市が認知症対策として何をしているのか，何をしていないのか，患者や家族が市に何を求めているのか現場を調査して，市の認知症対策の問題点を把握し質問する必要がある。調査が不足しているので具体的な改善策も見られない。重要なテーマであるので会派をあげて，長期的・継続的に調査する必要がある

平成26年第3回定例会（第6日目） 2014.09.18

発言順：3　佐藤わか子（市民フォーラム仙台）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：仙台市の国際会議誘致について ・仙台市の現状が昨年で九十件ぐらいの状況を，どのような戦略をもって福岡市並みの二百五十件という数字にできるのか，仙台市の具体的な国際会議誘致戦略 ・今まで国際会議誘致の組織強化をどのように実施してこられたのか，また，その効果をどう評価しているのか ・コンベンション誘致専門部隊をコンベンション協会の中に組み入れるべきではないか ・国際センターが民間の指定管理者により管理運営されることになり，今まで仙台国際交流協会が担っていた国際交流事業は，今後，どのような方向に進めていかれるのか ・将来の仙台市にどのような国際交流が必要なのか，その考え方 ・福岡市のように観光コンベンションの組織の中に，一般の方も含めた語学ボランティアの組織をつくるということに関しての見解 ・ユニークベニューなど魅力的なプログラムの開発は早急に行うべき ・関係組織が連携して誘致に当たることの重要性	2	2	2	6
２：仙台市の自殺対策について ・仙台市の若年層への自殺対策への取り組みの現状とその評価 ・若者が多く利用しているスマートフォンなどに相談窓口の情報が届くような取り組みも必要ではないか ・自殺未遂を繰り返すハイリスク者への対応として，宮城県警，仙台市消防局への協力を早急に要請し，連携して対策をとるべきではないか	1	1	2	4
３：仙台市の生活困窮者に対する支援について ・モデル事業の概要と目指すべき方向性 ・来年四月の本格実施に向けて，相談者を自立につなげる具体的な支援メニューを仙台市は今後どのように構築していくのか （仙台市としても，就労準備支援や家計相談支援などの支援メニューを早急に整備し，生活困窮者が実際に自立につながり，生活保護を受けなくて済むようにすべき） （さまざまな組織とネットワークを組み，本当の意味で生活困窮者が自立できるような取り組みを実行するべきではないか） ・生活困窮者の潜在的なニーズの掘り起こしをどのように実施していくのか，具体的な取り組み	1	1	2	4
４：過疎地対策について ・仙台市としての中山間地域の深刻な人口減少の課題と高齢化についての認識，課題解決のために具体的にどのような取り組みを実施されてこられたのか ・仙台市の地域おこし協力隊，集落支援員など，外部人材を活用する制度に対する認識と活用しようという発想はないのか ・仙台市の中山間地域の課題解決に，この制度が有効かどうか検討するべきではないか ・過疎地対策を担当する部署をきちんと明確にする必要があるのではないか ・山間部の学校の小規模化をどのように考えているのか，早急に対応すべきではないか ・山間部の小中一貫校に対する考え方 ・仙台市としての小中一貫教育を今後どう進めていかれるのか，具体的な方向性を議論する時期に来ているのではないか	1	1	2	4
	5	5	8	18

【コメント】
１⇒福岡市の調査を踏まえ仙台市の国際会議誘致戦略の問題点を指摘し，具体的改善案を伴った質問

平成26年第3回定例会（第6日目）2014.09.18

発言順：4　鈴木広康（公明党仙台市議団）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：空き家対策について ・平成二十五年の空き家は五万六千百戸で，全住宅の一〇％に減少しているが，空き家率が減少した原因をどのように分析しているか ・今後，住宅ストックと空き家の状況はどのように変化していくと考えているのか ・民間事業者との連携を構築しながら，今後，本市においても空き家バンクを設置するなど，情報提供できる体制づくりを進めていくべきではないか	1	1	2	4
２：障害者支援について ・障害者優先調達推進法及び物品等調達方針を，庁内にどのように周知徹底されてきたのか ・調達方針適用範囲に示された，市長部局，議会事務局，行政委員会，消防局，公営企業では，しっかり年間の優先調達の購入数値目標を決めて調達するようにすべきではないか ・市役所職員においても，障害者優先調達の趣旨にのっとり，名刺作成を依頼することも積極的に推進してはいかがか	1	1	2	4
３：子ども・子育て支援新制度に関連して ・この制度の内容について，市民説明会が各区役所を中心に行われましたが，何名の方が参加し，どのような質問等があったのか ・今後の子ども・子育て支援新制度スタートまでの利用手続スケジュールはどのようになっているのか ・子ども・子育て支援新制度の中の仙台市小規模保育事業で定員割れになっている理由 ・既存施設から新たに子ども・子育て支援新制度に合致した施設に移行する事業者への相談体制や励ましをしっかりと行っていく必要性とこれまでの対応と今後の対応 ・連携施設対応についてのルールの提案 （ゼロ歳から三歳未満児対象で十九人以下の小規模保育で，卒園児が三歳以上になっても受け皿が見つからない場合には，特例給付を受けて小規模保育事業を継続的に利用できるようにすべき） （小規模保育で保育され卒園した場合には，新たに認可保育所等に入所する子供より，入所基準の調整指数に小規模保育事業で卒園という項目を設け，優先利用が可能になるようにしてはどうか） ・小規模保育事業を進めていく上での提案（保育士の突発的な欠勤などの場合，園長が保育士の代替として一時的に保育に従事できるようすべき）	2	0	3	5
４：仙台子ども体験プラザ ・今後，各学校が順次この施設を活用することになるが，全校実施となった場合には，どれだけの予算が必要になるのか ・本市と協力企業との良好な関係を保つこと，ボランティアの皆さんと情報交換ができる場を設けることの必要性，それについての所見 ・全校が終了した後は，市内の私立の小中学校においても，体験活動の希望があれば受け入れることも考えてはいかがか	1	0	1	2
５：農商工連携について ・本市として，秋保ヴィレッジオープンに関連して，どのようにかかわってきたのか ・市街化調整区域，農業振興地域内でも農業振興を中心とした地域貢献施設の立地は認められるべきではないか	1	0	1	2
６：復興公営住宅に転居してからのコミュニティーや心のケア，高齢者の見守り支援について	0	0	1	1
	6	2	10	18

【コメント】
１，２，３⇒調査を踏まえ具体的提案を伴った優れた質問

平成26年第3回定例会（第6日目）2014.09.18

発言順：5　小野寺淳一（みんなの党・みんなの仙台）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：本市における土砂災害ハザードマップについて ・今回のハザードマップで，本市における土砂災害の危険箇所は全て網羅されているのか ・万が一の避難する際の避難経路などの危険性も考慮されているか ・ハザードマップを市のホームページの中で一つのページ内で一元化を図るべきではないか	1	0	1	2
２：政府で打ち出した地方創生に絡み，本市としてとるべき方向性について（今回の戦略に対し，本市としての地方創生をどう図ろうとするか）	0	0	0	0
３：生活保護受給について ・七月の外国人の生活保護受給申請が却下されたことをめぐる最高裁判所の判決を踏まえた今後の本市の運用 ・働ける困窮者の方に，生活保護を受ける前に速やかに就労できるようにする取り組みの必要性	0	0	1	1
４：近年ふえてきているＡＥＤについて ・必要であるが備えつけが行われていないコミュニティ・センターなどの市有施設に設置を一層進めるべき ・杜の都ハートエイドのさらなる周知と，既存のＡＥＤ設置事業所に登録してもらうことの必要性 ・多くの方が利用する公共交通機関に設置する必要性 ・ＪＲの在来線を含めた各駅，コンビニエンスストアなどについても，設置について働きかけを行う必要性	1	0	2	3
５：仮設住宅について（棟と棟の間に照明を設置する必要性）	0	0	1	1
	2	0	5	7

【コメント】
１⇒土砂災害の危険箇所が網羅されているかどうか，避難経路などの危険性も考慮されているかどうかは，事前に調べておく必要がある。 ２⇒政府で打ち出した地方創生について，本市がどのような態度で臨むべきか，一時的な復興で終えるのではなく，長らく住み続けられる都市にするために何をするべきか，質問者の意見を具体的に開示するべき。 ３⇒外国人の生活保護法に基づく受給権についても，質問者の考えをはっきり打ち出すべき。

平成26年第3回定例会（第6日目） 2014.09.18

発言順：6　野田譲（自由民主党・仙台）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：指定管理施設，特にスポーツ関連施設の窓口の一本化について ・スポーツナビゲーションセンターせんだいの設置場所は市民にとってわかりにくい場所ではないか ・市民にもっと積極的に広報する必要があるのではないか ・当初，各区役所まちづくり推進課内にもあった受付事務所を廃止した理由 ・指定管理施設については，それぞれの所管課が当事者責任の自覚を持って，市民サービスの向上を目指した改善に取り組んでいく必要があるのではないか	1	0	0	1
２：市内丘陵部の被災宅地復旧について ・予定どおり年度内に全ての地区の工事を完了させるため，施工事業者との連携も含めた，より一層の推進体制が不可欠ではないか ・早期の復旧が必要な宅地は，どのような調査により四十宅地の特定に至ったのか ・危険判定の宅地所有者の方々に対しても，制度の周知などを徹底し，積極的に復旧を促していくべきではないか	0	0	0	0
３：音楽ホールの整備について ・七月に，仙台経済同友会など地元経済団体が，市内中心部への音楽専用ホール新設の機運を高めるため，三年間で十億円を目指す音楽ホール建設基金を創設したことに関する本市に対する働きかけや本市からの関与，このことに関する当局の受けとめ方 ・楽都仙台の多様な音楽文化のニーズに応えられる施設，なおかつ，仙台のまちの活性化につながる施設が求められているのではないか	0	0	1	1
４：ラグビーワールドカップの仙台誘致について ・要望書と六千八百人分の署名簿を受け取った仙台市の現時点での感想と誘致の可能性 ・二〇〇二年のサッカーワールドカップの宮城県における開催についての当局の認識 ・ラグビーワールドカップの仙台誘致というチャンスをどのように捉えていくのか，市長の所見	1	0	1	2
５：姉妹・友好都市について ・姉妹・友好都市の市民広報の改善，強化 ・姉妹都市である北海道の白老町の大雨被害についての，本市としての被災状況の把握と支援等の申し出 ・広島市の大規模な土砂災害について，仙台市民を挙げて，できることで応援する必要があるのではないか。本市が率先して，市民の支援意識を盛り上げていくべきではないか。 ・アカプルコなどとの友好協力をどのように市民に広報しているのか	0	0	1	1
６：本市のエネルギーにかかわる取り組みについて（本市においても，今後のエネルギー政策に関する明確なビジョンを新たに打ち出していく必要があるのではないか）	0	0	0	0
	2	0	3	5

【コメント】
２⇒四十宅地の特定の経過は事前に調べておく必要がある。 ５⇒北海道の白老町の大雨被害の状況を市がどのように把握しているのか，支援についてどのような方針を持っているのかは，事前に調査する必要がある。アカプルコの広報も事前に調べておく必要がある。 ６⇒エネルギー自律型都市とはなにか，今後のエネルギー政策に関するビジョンとは何か，質問者が自らの意見を開示して質問する必要がある。

平成26年第3回定例会（第6日目） 2014.09.18

発言順：7　佐藤正昭（自由民主党・仙台）

質問	①事前・現場調査（0～4点）	②他都市との比較（0～2点）	③改善案（0～3点）	合計
１：消防団活動の充実強化について ・消防団強化対策の本市での取り組みについて （広報ＰＲ体制の充実強化） （消防団員の装備の充実強化） （消防団の機械器具置き場の装備品の充実強化） （活動環境の整備）	1	0	2	3
２：仙台市の下水道事業二件が，平成二十六年度国土交通大臣賞を受賞したことについて	0	0	0	0
３：二〇一六年に日本で開かれる主要国首脳会議，サミットの仙台開催のための誘致申請について（これまでの経緯，経過と，誘致成功の戦略）	0	0	0	0
４：国家戦略特区に関する提案募集への仙台市の応募について ・東北全体の自治体や民間との連携を大切にし，国とのコミュニケーションによって，国の力も引き出すくらいの戦術が必要ではないか ・オール仙台，チーム仙台で国家戦略特区をかち取っていく必要性	0	0	0	0
５：議会協働の必要性（市長を初め当局側は内弁慶にならず，議会側にもっと近づいてくるべき）	0	0	0	0
	1	0	2	3

【コメント】
１⇒消防団の装備について，法律施行後，どのように充実強化してきたかは，事前に調べる必要がある。 ４⇒「国の力も引き出すくらいの戦術」とは何か，具体的に明らかにする必要がある。 ５⇒当局が近づいてくる程の政策形成能力を議会が身につけているかどうか自問するべき。